

令和7年二十歳を祝う会

「つながり」を大切に
日々感謝を



佐藤 幹太さん

本日はお忙しい中、私たちのためにこのような盛大な式典を開催していただき、誠にありがとうございます。まず初めに、私たちのために心を込めて準備をしてくださった主催者の皆様に、深く感謝申し上げます。毎年のこととはいえ、何日も前から準備を重ね、多くの関係者の方々が携わり、この式典が実現できたことを本当に嬉しく思います。皆様のご尽力のおかげで、今日という特別な日を迎えることができましたこと、心より感謝申し上げます。また、ご来賓の皆様には、ご多忙のところご臨席を賜るとともに皆様からのお祝いや激励の言葉を頂きましたことを代表して心よ

りお礼申し上げます。

そして今日まで、私たちをこまめ支えてくださった家族、先生方、仲間たち、すべてのかたに感謝の気持ちを伝えさせていただきます。私たちが今日、成人としてここに立つことができるのは、どんな時も温かく見守り、背中を押し、支えてくれた家族、多感な時期である私たちに、間違った行動においては叱っていただいたり、悩んでいるときには寄り添い導いて頂き、勉学の知識だけでなく、進路や受験勉強、人生設計など不安が多い学生生活において大切なことを教えてくださった先生方、携わっていたすべての方々のおかげでここまで成長することができました。今日、成人を迎えた私たちはこの盛大な節目の場を借りて、普段はなかなか言えない感謝の気持ちを伝えるべきだと思います。この特別な日に、これまで支えてくれたすべての人々に感謝の気持ちを伝えられることを心から嬉しく思います。これからは、私たちが大人としての責任を持ち、周囲の期待に応えられるよう努力すること、恩返しの形であると思います。皆様から受けた恩を、少しでも社会に還元できるような存在にな

りたいと心から思っています。

今年、二十歳という節目を迎えた私たちですが、過去を振り返ってみると、様々な思い出があると思います。クラス替えで仲の良い友達と同じクラスになれるのか、といった緊張感やクラスで賞や優勝を目指し一つになった合唱コンクールや体育祭、ぶつかり合いが多い中、少しずつお互いを尊重しあい高めていった部活動など、かけがえのない思い出のなかでの様々な経験が今の自分を作り成長させていると思います。私たちの世代は小学校入学直前に東日本大震災、中学卒業時には新型コロナウイルスなどを経験してきました。特に新型コロナウイルスでは中学の卒業式や高校の入学式の規模が小さくなり、授業はオンライン授業、部活動の多くの大会や修学旅行などが中止になるなど、想像していた高校生活ではなく、日常的にも予測のできない未来に多くの不安やストレスを抱える時間が多くありました。私はそのなかで人とのつながりがいかに大事なものかを強く感じました。今まで何気なく笑いあったり会話していた人との時間や部活動で声を掛け合っていたチームメイトの存

在が自分のなかですごく大きなものであり、原動力となっているかを痛感しました。規制が緩和され日常が戻ってきたように感じますが、これを当たり前と考えず、改めてそのありがたさを感じる事が大切だと思っています。この貴重な「つながり」を大切にし、日常の小さな幸せに感謝しながら過ごしていきたいと思います。今日、成人を迎えた私たちは、就職し社会に貢献している人、大学や専門学校で勉学に励んでいる人など、様々な進路を歩んでいますが、これまで多くの経験や不安を乗り越えた私たちなら、これから

の人生でもどんな困難にも立ち向かい、失敗を恐れず挑戦し、成長していくことができると思います。成人としての責任を感じつつ、これからの人生に向けて少しずつ成長していきます。しかし、まだまだ未熟な私たちです。これからも皆様の温かいご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

最後になりますが、本日お集まりいただいた皆様の一層のご健勝をお祈り申し上げ、代表のあいさつとさせていただきます。

本日は、二十歳という人生の節目を迎えた私たちの門出に際し、このような式典を開催していただき、誠にありがとうございます。また、大河原町長齋清志様を始め、来賓の方々、ご出席いただきました皆様には、ご多忙な所、ご臨席賜るとともに、皆様からのお祝いや激励の言葉をいただきまして、代表して心より御礼申し上げます。

かつて同じ学び舎で共に生活した仲間たちと久しぶりに再会し、とても嬉しく思います。中学時代の思い出を振り返ると共に、あの頃の自分と今の自分を比べて、改めて自分が大人になったことを実感しております。時にはぶつかり合いながらも同じ目標に向かって努力した部活動や、友人と共に笑い合った日々、不安と戦いながら励まし合っ



関谷 寧々さん

将来の夢に向かって
少しずつ前進

て受験勉強をした日々など、あの頃の全ての経験が今の私を形作っているものだと感じます。私たちがこうして二十歳を迎えられたのも、熱心に指導して下さいった先生方、温かく見守って下さった地域の皆様、そして何より、一番近くで支えてくれた家族のおかげです。本当にありがとうございます。今、私たちは、それぞれの道を歩んでいます。進む道は違えども、この大河原町で育ってきた仲間同士助け合いながら、大人としての自覚と責任を持つて行動していきます。そして、今までお世話になった人に恩返しをできるように努力していきたいと思っています。

私は現在、大学で薬剤師を目指して学業に励んでいます。将来は地域医療に貢献し、多くの人を支えていけるような薬剤師になりたいです。様々な感染症や病気が増えていく現代で、薬は人々にとってより身近な存在になっていきます。それと共に、薬に対しての悩みや不安を抱えていく人も多くなると思いますが、患者さんと密接に関わり合える地域医療という場で、そのような悩みに寄り添いながら、薬を通して人生を支えていけるような薬剤師を目指していきたいと思っています。薬剤師になるために学ばなければならぬことは幅広く、立ち止まっ

てしまいそうなこともあります。が、少しずつ一步一步前進し、夢に向かって歩んでいきます。

これまでの20年間、たくさんの人に出会い、支えられながら様々な経験をしてきました。楽しいことやうれしいこともたくさんありました。大変だったことや辛かったことの方が記憶に残っているかもしれません。これから先、私たちがどのような道を歩んで、どのような大人になつていくかはまだ分かりません。時には試練に直面することもあると思います。しかし、試練の中にはやりがいや喜びがきっとあると思います。そのやりがいや喜びを見つけ出しながら、力強く生きていくことを誓います。

最後になりましたが、新たな門出を迎えた今、改めて多くの人への感謝の気持ちを忘れずに、この大河原町へ恩返しをできるよう、日々精進して参ります。まだまだ未熟な私たちに、より一層のご指導ご鞭撻をよろしく願っています。

そして、本日お集まりいただきました皆様の一層のご健勝をお祈り申し上げ、代表の挨拶とさせていただきます。

二十歳を祝う会実行委員会の皆さん

